

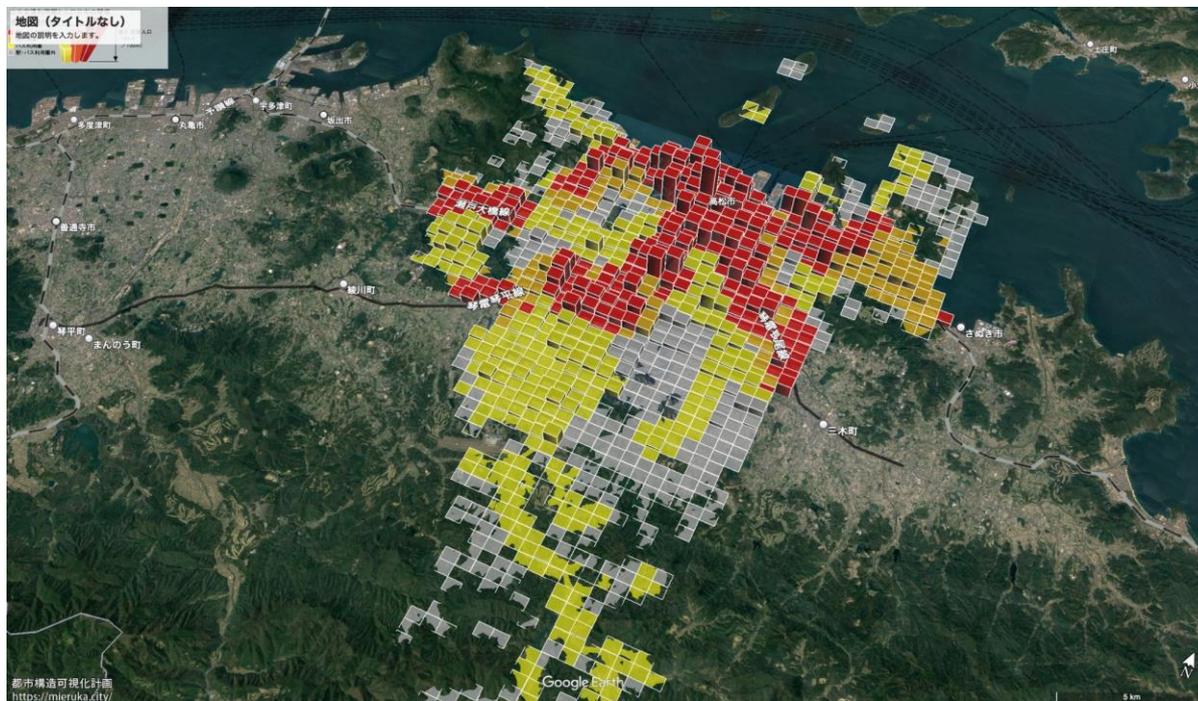
都市構造可視化の活用

～事例報告～

香川県 高松市 都市計画課

2.活用事例

公共交通利用圏と人口分布の関係



色：公共交通利用圏

- 駅・バス利用圏
- 駅利用圏
- バス利用圏
- 駅・バス利用圏外



高さ：夜間人口
(100人/100m)

補注：都市構造可視化計画、Data SIO NOAA,U.S.Navy NGA, GEBCO
Image Landsat/Copernicus, Google Earth を使用

駅・バス利用圏（私鉄の線路沿い）が夜間人口が多いことが視覚的にわかる。

3. 普及活動

課内の職員へ操作方法を説明



4. 普及活動

協議時に可視化ソフトを活用して説明



5. 今後の活用

防災指針策定への活用

8. 防災指針の検討について

国土交通省

防災指針検討のフロー

6. 誘導施設、誘導区域等の検討

2. 都市が抱える課題の分析及び解決すべき課題の抽出
(災害ハザード情報と都市情報の重ね合わせ等)

3. まちづくりの方針（ターゲット）の検討
(居住の安全確保など防災・減災に向けたまちづくりの方針)

8 防災指針の検討

8-1. 居住誘導区域等における災害リスク分析と防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

1) 災害ハザード情報等の収集、整理
2) 災害リスクの高い地域等の抽出
3) 地区ごとの防災上の課題の整理

8-2. 防災まちづくりの将来像、取組方針の検討

1) 地区ごとの課題を踏まえた取組方針の検討

8-3. 具体的な取組、スケジュール、目標値の検討

1) 防災指針に基づく具体的なハード・ソフトの取組の検討
2) 取組スケジュールと目標値の検討
3) 防災指針に関連する制度の活用

災害を最小限
初動避難
防災インフラの整備

8. 防災指針の検討について

国土交通省

8-1. 居住誘導区域等における災害リスクの分析と防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

2) 災害リスクの高い地域等の抽出③：組み合わせる情報と分析の視点(1)

■ 外力規模や災害種別ごとのハザード情報と都市の情報を重ね合わせることで、下記のような災害リスクの分析を行うことが考えられます。

組み合わせる情報（ハザード情報）	組み合わせる情報（都市の情報）	分析の視点
洪水害 (洪水、高水、内水（内水）、風潮、津波)	建物高、建築物の耐震性	被害規模と対応できるか
	避難経路・避難時間	避難経路が通れるか
浸水害 (浸水、高水、内水（内水）、風潮、津波)	建物高、建築物の耐震性	被害規模と対応できるか
	避難経路・避難時間	避難経路が通れるか
洪水・浸水被害 (洪水、高水、内水（内水）、風潮、津波)	建物高、建築物の耐震性	被害規模と対応できるか
	避難経路・避難時間	避難経路が通れるか
洪水・浸水被害 (洪水、高水、内水（内水）、風潮、津波)	建物高、建築物の耐震性	被害規模と対応できるか
	避難経路・避難時間	避難経路が通れるか
洪水・浸水被害 (洪水、高水、内水（内水）、風潮、津波)	建物高、建築物の耐震性	被害規模と対応できるか
	避難経路・避難時間	避難経路が通れるか
洪水・浸水被害 (洪水、高水、内水（内水）、風潮、津波)	建物高、建築物の耐震性	被害規模と対応できるか
	避難経路・避難時間	避難経路が通れるか

様々なデータを組み合わせ、夜間早朝・平日昼間・休日等人々の動きにも考慮した被害想定をしていきたいです。また、可視化データを他課にも展開・共有し、今後の持続可能なまちづくりに生かしていきます。

都市構造可視化サイトを活用してみても…

- ・可視化することで、都市構造の現状把握や都市が抱える課題がわかりやすくなった。
- ・3Dマウスの操作性がよく、有効に活用できた。
- ・市が持っている様々な調査データ等を組み合わせることで、より有益な検討が可能になると感じた。
- ・様々な分野で活用できる可能性があるため、普及を進める必要があると感じた。

